

## 格差ベアの永久根絶は貫徹可能な要求だったのか

2017年12月3日全支部委員長会議でY君は「私たちは「格差ベア根絶」を目指す以上、19春闘以降も「格差ベアを一切おこなわない」ということを会社に言い切らせなければならないということなのです。従って、今日この段階で本部、地本そして支部委員長も含めて甘い認識を持っているリーダーがいるとすれば、その認識を改めてほしいと思います」と述べました。

1月9日全専従者会議でY君は「私たちの要求である永久根絶を迫ります。おそらく会社はイエスと言わないでしょう。その時に我々自身が間違いなく認識しておかなければならないことは、すでにスト権は確立しているんです。ですからその瞬間、行使となるということです。そこを腹に決めてください。」と述べました。

2月1日第2回中央闘争委員会でY君は「会社は「永久根絶」という回答はしないだろう。したがって、定中で議論しなければならないのは、確立しているスト権を行使するための準備に入ることを確認しなければならない」と会社は「永久根絶」という回答はしないという認識に立っていました。

また、2月20日富田社長名での「社員の皆さんへ」では「毎年度の経営状況を勘案して、労使の議論を経て決定するもので、将来にわたってベアの実施方法を確約することなどはありえないこと」と掲示し、会社としてもベアの実施方法を確約することはできないと明確に言い切っていました。

私たちは今振り返れば、要求が貫徹できない方針を担っていたということです。もし、Y君が指名ストを構えれば、実際にストに突入しなくても会社が引くだろうと18春闘を構想していたとしたら、完全に情勢や会社との力関係を見誤っていたということです。

日経ビジネス（6月25日発行）には「官邸は五輪開催中のストを強く恐れる。JRの運行が止まり大会運営に支障が出れば、国のメンツが潰れる。そうなる前に組合を骨抜きにする必要があると判断した。」と報道されています。もしこれが事実なら、「格差ベア根絶」方針は首相官邸や会社の攻撃を引き出したということになります。

労働組合がスト戦術を掲げてたたかうのは間違いではありません。また、格差に「反対」するたたかいや格差を「是正」するたたかいも間違いではありません。

しかし、18春闘の格差ベア「根絶」要求は会社の経営権に踏み込む到底貫徹できない要求であり、労働組合の枠を超えたものと言えます。仮に私たちが掲げる要求自体は間違いでなくても世論や組合員が納得し連帯できる内容であったのかを検証しなくてはなりません。